

産業廃棄物処理計画書

平成 23年 7月 10日

大分県知事 広瀬勝貞 殿

報告者

住 所 大分県中津市大字犬丸 370番地

氏 名 株式会社 キヌガワ大分

取締役社長 堀 正彦

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0979-32-6531

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第7項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、この書面を添えて提出します。

事業場の名称	株式会社 キヌガワ大分
事業場の所在地	大分県中津市大字犬丸 370番地
事業の種類	ゴム製品製造業 工業用ゴム製品製造 [2033]
前年度の産業廃棄物発生量	(種類) 別添 (発生量)
本年度の目標	①産業廃棄物発生量 (種類) 〃 (発生量)
	②自己直接再生利用量 〃
	③自己直接埋立処分 又は海洋投入量 〃
	④自己中間処理量 〃
	⑤自己中間処理残さ量 〃



⑥自己中間処理後 再生利用量	別添
⑦自己中間処理後自己 埋立処分又は海洋投入量	〃
⑧直接委託及び自己処理 後委託処分量	〃
※事務処理欄	

備考

- 1 この様式は、前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の4の4の基準に従って作成した産業廃棄物処理計画に添えて提出すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「事業の種類」の欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
- 4 「前年度の産業廃棄物発生量」の欄には、前年度に当該事業場において生じた産業廃棄物の種類及び種類ごとの発生量を記入すること。
- 5 「本年度の目標」の欄には、当該年度の産業廃棄物に関して①～⑧の欄のそれぞれに、(1)から(8)に掲げる量について、その目標量を記入すること。
 - (1) ①欄 当該事業場において生ずる産業廃棄物の種類及び種類ごとの発生量
 - (2) ②欄 (1)の量のうち、直接自ら再生利用する量
 - (3) ③欄 (1)の量のうち、直接自ら最終処分場に埋立処分する量及び海洋投入処分する量
 - (4) ④欄 (1)の量のうち、自ら中間処理する量
 - (5) ⑤欄 自ら中間処理を行った後の産業廃棄物の量
 - (6) ⑥欄 (5)の量のうち、自ら利用し、又は他人に売却する量
 - (7) ⑦欄 (5)の量のうち、自ら最終処分場に埋立処分する量及び海洋投入処分する量
 - (8) ⑧欄 (1)の量のうち他人に委託して処理する量に、(5)の量のうち他人に委託して処理する量を加えた量
- 5 ※欄には、何も記入しないこと。

別添

		前年度実績	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧		
			本年度目標 産業廃棄物 発生量	自己直接 再生利用量	自己直接埋 立処分又は 海洋投棄量	自己中間 処理量	自己中間 処理残渣量	自己中間 処理後 再生利用量	自己中間処 理後直接埋 立処分又は 海洋投棄量	委託処分量		
			再生	中間処理 (再生以外)	最終処分							
廃プラスチック 合成ゴム	合成ゴム	645	794	0	0	0	0	0	0	0	794	0
	リット材	10	10	0	0	0	0	0	0	10	0	0
	FMR端末	27	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0
廃液	硬化廃液	13	20	0	0	0	0	0	0	0	20	0
	廃溶剤+廃油	23	26	0	0	0	0	0	0	0	26	0
廃プラスチック 合成ゴム 以外	廃フィルター	5	6	0	0	0	0	0	0	0	6	0
	炭灰	11	7	0	0	0	0	0	0	0	7	0
	樹脂パレ・他	9	5	0	0	0	0	0	0	0	3	2
金属クズ	芯材・廃缶	15	10	0	0	0	0	0	0	0	10	0
	金属クズ	32	20	0	0	0	0	0	0	20	0	0
紙くず・ダンボール		14	11	0	0	0	0	0	0	11	0	0
木屑(木パレ+木)		43	11	0	0	0	0	0	0	0	11	0
ガラス屑		1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
燃えるゴミ		32	30	0	0	0	0	0	0	0	30	0
合計		880	961	0	0	0	0	0	0	41	917	3

1. 会社の概要

(1) 会社名

株式会社キヌガワ大分

(2) 資本金

1 億円

(3) 従業員数

134人（派遣社員除く）

2. 当該事業場において現に行っている事業の概要

(1) 従業員数

134人（派遣社員除く）

(2) 製造品出荷額等

51億円

(3) 製造概要

当社では、自動車用ゴム・樹脂部品（車体部品等）製造している。

(4) 製造等フローシート

図1・2参照

(5) 工場配置図

図3参照

(6) 事業展望

11年度は生産量が増加する見込みで、それに伴い産業廃棄物の排出量も全般的に増加する。

(7) 廃棄物処理フロー図

図4参照

(8) 連絡先

担当者： 株式会社キヌガ大分

環境管理事務局

電話番号： 0979-32-6531（代表）

3. 計画期間

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで

4. 廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(1) 責任者及び管理組織

統括責任者	所属： 株式会社キヌガワ大分 職・氏名： 取締役社長 堀 正彦
廃棄物担当	組織名： 環境管理事務局 職・氏名： 環境管理事務局 管理課 管理SS 職・氏名： 環境管理事務局 生産部 管理課 組織人員： 7名
役割 環境管理委員会	環境マネジメントマニュアル（体制及び責任）参照
廃棄物委員会	環境マネジメントマニュアル（体制及び責任）参照
廃棄物管理組織	環境マネジメントマニュアル（体制及び責任）参照

(2)管理体制の強化

環境マネジメントマニュアル（体制及び責任）参照

(3)教育・研修

環境マネジメントマニュアル（訓練・自覚及び能力）参照

(4)情報公開

環境マネジメントマニュアル（コミュニケーション）参照

5. 廃棄物の処理に関する事項

(1)基本的事項

- ① 産業廃棄物の適正処理を確保するため、関連する法令、その他の規則を遵守するとともに行政の環境施策に協力する。
- ② 発生した産業廃棄物は自ら処理することを原則とし、処理業者に委託する場合であっても、収集運搬から処分に至るまで確認し的確に管理する。
- ③ 最終処分量の削減、再生利用の拡大等について、環境マネジメントシステムを運用し、継続的改善を実施する。
- ④ 廃棄物の処理について次に掲げる事項を実施し、また、関連会社にも必要な運用協力依頼をする。

発生抑止 ・ 工程内リサイクルを推進する。
・ 発生抑制を考慮した製造方法を検討する。

再生利用 ・ 資源化、燃料利用を推進する。
・ 再生利用ルートを確保する。

その他 ・ 処理内容を確認し、処理業者と適正な委託契約を締結する。
・ 特別管理産業廃棄物の適正処理を確保する。

(2)廃棄物処理の状況

① 廃プラスチック

10年度当社から発生した産業廃棄物は、廃プラスチック類（合成ゴム・合成樹脂類）が645t/年と全排出量の73%を占め、それらは全てサーマルリサイクル（セメントの助燃材）として活用している。又、再生利用が困難なゴムから再生利用が可能な樹脂材へ移行している。再生可能な樹脂材の占める割合は10年、36%となった。

② 金属屑

10年度金属屑の排出量は32t/年であり、全排出量の3.6%を占めている。その大半がアルミを使用した部品の廃却と廃却設備が占めている。 部品に使用したアルミ、スチールに関しては100%マテリアルリサイクルを目的とした業者に委託している。

(3)目標の設定

県内及び隣県における処分場の問題もあり、(2)廃棄物処理の状況で述べた通り樹脂材料への移行に取り組んで入るが、廃棄物の大半が合成ゴムであり、廃棄物の発生抑制、分別、再生利用、中間処理の強化が必要となっている。

具体的な取り組みについては後述のとおり。

〈その他の取り組み〉

- ・ 廃棄物の発生抑制
- ・ 廃棄物の性状分析と処理状況の記録
- ・ 処理業者と委託契約を結ぶに当たっての事前の現地確認を行う。
- ・ マニフェストの管理を徹底する。

(4) 廃棄物の処理に係る情報の収集・管理

環境管理事務局・業務部にて廃棄物の処理技術、廃棄物関係法令の情報収集を行う。これらの情報は全ての社員に社内ネットワーク及び掲示板を通じて情報提供される。

(5) 中長期的課題

① 環境管理・監査システムの導入・構築

ISO14001(2004年版)を2005年12月に取得し、環境管理委員会、廃棄物委員会のなかで管理・監査システムを設定した。今後はこのシステムの維持向上を図る。

② 自主管理基準の設定

工場における夫々の管理基準を設定し、環境管理のレベルの維持向上を図る。

③ 環境にかかる社会活動への積極的な参加

環境に配慮した製品等の展示など環境イベントの参加・協力を積極的に進める。

6. 産業廃棄物の発生抑制・分別・再利用に関する事項

現在処理業者等と協議し、以下の取り組みを行っている。

- ① 廃プラスチックの再資源化
- ② アド付き樹脂コーナー成形部の再資源化
- ③ 鉄屑類の分別による再資源化
- ④ ポリ容器（PP）の分別による再資源化

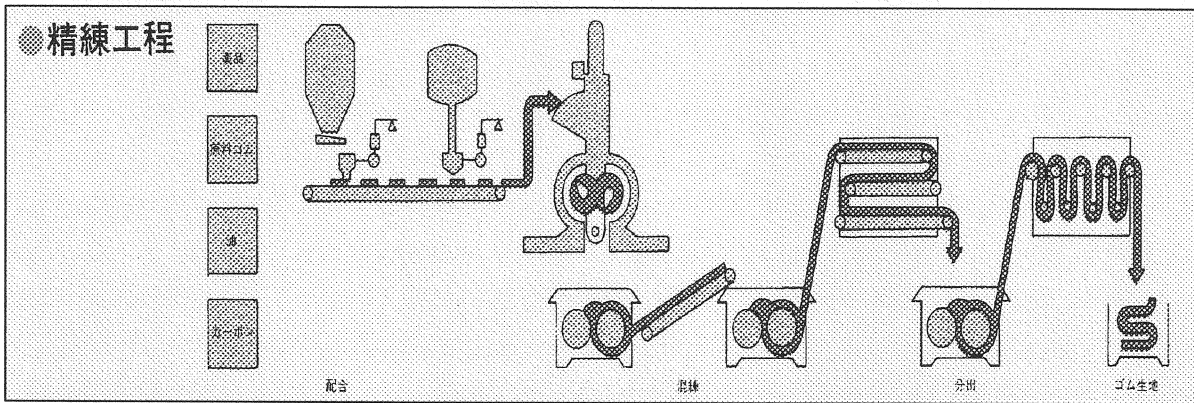
行政との連携、業会のネットワークを活用し（再生業者の紹介等）再生処理ルートの確保。

7. 産業廃棄物の最終処分に関する事項

上記の活動を現在進行中であり、最終処分の量の削減を行う。

以上

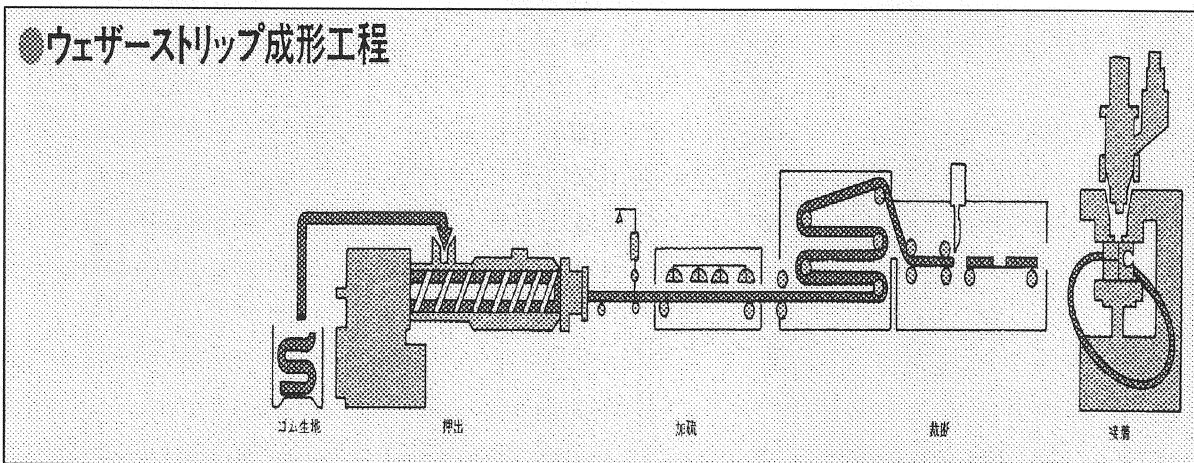
図1 精練工程製造フローシート



発生廃棄物

- 廃プラスチック (合成ゴム)
- 廃プラスチック類 (容器類)
- 金属屑 (鉄屑)
- 木屑 (木製パレット)
- 廃油・廃溶剤
- ガラス屑

図2 成形工程製造フローシート



発生廃棄物

- 廃プラスチック (合成ゴム)
- 廃プラスチック類 (容器類)
- 金属屑 (アルミ・スチール・鉄屑)
- 木屑 (木片)
- 廃油・廃溶剤
- ガラス屑

図4 廃棄物処理フロー図

